

# 全国連盟通信

第30期 No.4  
2013年 3月11日  
発行責任者  
和食昭夫



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: cbf31680@pop02.odn.ne.jp URL <http://www.njsf.net>

つながり 支援の輪

## 第30期第1回評議員会を終えて

新日本スポーツ連盟会長 永井 博

評議員会を終えた今、脳裏をよぎる思いは、「力を合わせて着実に、確実に活動を推し進めていこう」、「種目を越えて、地域を越えて、連盟として心をついにしよう」というものです。

評議員会は、東北復興支援第29回全国スポーツ祭典の成功を確認しました。この確認に象徴されるように、私たちの活動や運動は前進しているといっただけでよいでしょう。にもかかわらず評議員会は、私たちが直面している課題についても、明らかにしました。挙手による採決を行ない、結論づけた場面もありました。いくつか重要な結論・方向が確認されました。

その具体的な内容については、福島事務局長の報告に明確にされています。大切なことは、自分たちで出した結論・方向に、それぞれが責任を持って取り組み、活動と組織を前進させることです。

その前進を基礎に、2年後に迎える創立50周年記念日を「飛躍的前進の中で」迎えることです。評議員会に提起された、「創立50周年

記念事業の全体構想と運動の目標について」は、7大事業とともに「活動と運動の強化の目標」を3つ挙げています。

①「スポーツの仲間づくり」を活発にし、全県に県連盟を確立しよう。②スポーツ基本法をいかに、国民のスポーツ権実現のための協力・共同を発展させよう。③すべての加盟クラブ・チームに、1人以上の連盟機関誌「スポーツのひろば」の読者を実現しよう。の3つです。

7大事業とともに、この強化の目標をやりとげ、創立50周年を迎えましょう。評議員会という号砲が鳴りました。私たちは、スタートを切ったのです。

### 第30期第1回評議員会

2月23日～24日、東京の帝京平成大学内集会室/南部労政会館で開催。

評議員は「各連盟組織の代表」としての性格を持っており、評議員会は、総会に次ぐ決議機関であり、理事会が提案する議案を審議し決定する役割をもつものです。

### CONTENTS

- |                   |        |                                       |        |
|-------------------|--------|---------------------------------------|--------|
| 1 第30期第1回評議員会を終えて | 文＝永井博  | 6 声明＝「スポーツから「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすための共同を！ |        |
| 2 第30期第1回評議員会の報告  | 文＝福島邦夫 | 7 東京オリンピック招致問題                        | 文＝和食昭夫 |
| 5 第29回全国スポーツ祭典の報告 | 文＝萩原純一 | 8 2013年全国競技大会一覧。全国会議・主要事業予定表。義援金報告。   |        |

## 第30期第1回評議員会の報告

2月23日、24日の両日、第30期第1回評議員会が開催されました。出席は、評議員39名（92%）と理事・役員34名でした。議案は全て承認され、以下に特徴となる事項を報告します。（事務局長：福島邦夫）

### 一、第30回全国総会後の活動の特徴と課題

#### 1、東北復興支援第29回全国スポーツ祭典の大きな成功

「深めよう絆！スポーツは生きる力」のスローガンの下、全国各地のスポーツ連盟のみなさんの気持ちが一つになって、東北復興支援という共通課題を果たし、大きな成功を収めました。（P5に祭典報告）

#### 2、『スポーツの仲間づくり運動』をダイナミックにすすめることに新たな広がり

スポーツ連盟の組織のない地域に出向いて行う「出前大会」は、連盟との出会いのない愛好者に活動を知らせるだけでなく、今後のスポーツ連盟の担い手をつくる可能性をつくる出発の場にもなります。「空白組織対策事業助成制度」をおおいに活用し、出前大会を開催するように取り組みました。卓球では、全国41都道府県で県スポーツ祭典を開催しましたが、このうち出前大会は19県です。ウォーキング、ミックスバレーボール、バレーボール、バドミントンでも積極的に助成制度を活用し、出前大会を広げました。これらの多様な経験を交流し合い、今後、他の種目でも出前大会開催の計画を持ち、スポーツ連盟の魅力を前面に押し出し、具体的なスポーツ活動で愛好者に広げていくことが大事です。

#### 3、国民のスポーツ権実現をめざす活動に新たな意気込み

大阪市や神奈川県が「緊急財政対策」として住民無視の公共施設の大幅削減計画を唐突に打ち出したことに対して、神奈川県連盟と大阪府連盟は各種団体と協力・共同して、かつスポーツ基本法の理念に基づいて、そうした計画の撤回を求める運動を展開しています。また、スポーツ基本法の学習会が、東京都連盟、東京卓球協議会、板橋区連盟、中野区連盟、全国スキー協学習会、東海ブロックセミナー、兵庫県連盟、北海道「基本法」学習交流会、福岡「基本法」セミナーで開催されました。そして、北海道連盟、岩手県連盟、東京都連盟、練馬区連盟、板橋区連盟、北区連盟、新宿区連盟、中野区連盟、江東水泳連絡会、神奈川県連盟、京都府連盟、兵庫県連盟は、スポーツ基本法の理念と各条文を活用して、提案型のスポーツ施設建設・改善要望書を対象自治体に提出し懇談の場を設けています。

#### 4、草の根の国際活動を本格的に展開

2012年は、福岡実行委員会、全国RCと全国連盟の共同開催で広島～長崎間の反核平和マラソン及び広島集会を実施。これには、FSGT7名・韓国4名が参加し、関係者の努力によって大きく成功させることができました。東北各県をはじめ東京・神奈川・大阪・福岡など外国代表と日本各地の組織との交流が促進されました。財政的には、赤字分を全国連盟が一定額の負担をしたことと関わって、外国招待の際の広島・長崎反核平和マラソンへの財政的措置および代表団の観光の位置づけとその財政確保などについて、整理・検討が必要です。

また、国際交流活動の「調整と統括」をするために【国際交流に関する規定】を作り、承認されました。

#### 5、スポーツの復興を中心とした支援の活動

スキー協が主催した被災者の子ども達を招待して行った「春休みスキー」の取り組み。国際交流の「被災地の子どもたちと一緒に遊ぶ」ほか、6月17日～20日に宮城県女川町でのボランティア活動。8月4日（土）「第15回復興支援福島スポーツ祭典卓球大会」や10月8日の福島復興支援バドミントン大会。川崎ハーフマラソンなどランニング分野のとりくみ。労山全国連盟と福島県連盟などの共同で取組んだ登山コース、ハイキングの線量調査の取り組みは地元マスコミからも注目されました。また、支援募金をすすめました。

#### 6、「原発ゼロの社会をめざす」活動

反核・平和マラソンをつうじて原発ゼロの社会実現を全国各地でアピールしました。理事会では、「原発ゼロの社会をめざす」ため集会や国民各層の運動に参加していくことを確認し、2012年の「さようなら原発10万人集会」、「7.29 脱原発 国会大包围」、「8.10 首相官邸周辺抗議」に任意参加を呼び掛けました。

## 7. スポーツ連盟の魅力を発信する広報活動

「スポーツのひろば」、「全国通信」、宣伝物・「ニュース」、ホームページを活用し強めてきました。特に「スポーツのひろば」は、この1年間の普及活動で、新規に195人のあらたな読者を増やすことができました。普及と価格改定（案）の提案は、採決で保留8・反対6・賛成17で可決しました。

### 『スポーツのひろば』普及と価格改定

1、現状は「継続手続」時に一定の減誌はさげられない状況であるので、新規購読者を増やす必要がある事から、新規購読者290円のキャンペーンは2013年度も続けていくことを提案します。また、2012年度のキャンペーン購読者も290円を継続します。

2、第30回定期全国総会で継続審議となった「『スポーツのひろば』の定価を2014年より450円から290円に値下げする」という方針は、新規購読者290円のキャンペーンを続ける中、更なる可能性を見出して、2014年より定価290円とすることを目指します。

## 8. 諸課題

補償充実を図るための「2013年度傷害見舞金制度（案）」は、加入金を現行のままの70円で修正提案され採択されました。また、「会議運営規定」を現状運用に合わせた改定案も採択されました。

## 二、創立50周年をめざして

### 1. 創立50周年記念事業の全体構想について

新日本スポーツ連盟は、1965年11月12日に「新日本体育連盟」の名称で「スポーツは万人の権利」の実現を掲げ創立して以来、2015年11月12日、50周年を迎えます。この歴史的な記念すべき日に向けて、スポーツ連盟の活動と組織の強化とともに、50年にわたる多面的で豊かな活動を連盟内外にアピールする記念事業にとりくみます。評議員会の意見を受け大枠が確認され、4月に予定する第5回理事会で具体化されます。なお、連盟創立50周年記念事業のひとつである「国際シンポジウム」の開催は、創立記念日前後に行い、記念レセプション、評議員会とセットで行うことが確認されました。

### 2. スポーツ科学研究所準備委員会について

2014年秋の正式発足をめざして、日程、予算、体制、研究交流会の開催などが報告されました。当面は、事務局を連盟内に置き、設立募金や会員募集を開始し、ボランティアの研究者の協力を中心にすすめられます。

## 三、2013年度の重点方針

### <体罰・暴力の根絶を>

新日本スポーツ連盟は、スポーツを、自由と自主性を生命とする文化として発展させることを使命として活動してきました。それゆえ、すべてのスポーツにおける体罰・暴力は、スポーツの価値を否定するものであり、スポーツとは絶対に相いれない、という立場をあらためて表明します。

スポーツ連盟は、スポーツ界から体罰・暴力を根絶するために「声明」（6～7ページに掲載）を発表し、すべてのスポーツ団体、スポーツ指導者が、協力し合い、広く国民的な討論を起こすことをよびかけます。

### <スポーツ基本法の実行を>

スポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」と規定されているにもかかわらず、公共スポーツ施設の縮小・廃止、体罰・暴力の横行など、基本法に逆行する事態も生まれています。スポーツ連盟の基本理念とスポーツ基本法。この二つの価値と役割を体得・体現し、スポーツ活動の質的な向上をはかるために、みんなの知恵と力を出し合って前進していきましょう。

### 1. 暖かさと連帯に充ちた多様なスポーツ活動を広げ、「スポーツの仲間づくり運動」をダイナミックにすすめよう

①2013年には、ブロックの共同の力の発揮、全国種目と県連盟との協力など連盟全体の力をより発揮して、前年に展開できなかった県連盟づくりを展望しながら「スポーツ懇談会」を開催し、新しい動きを作ります。

②最低1つ以上の空白地域で、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、野球の出前大会の開催をめざす。

③新しい県での連盟づくりに結びつくように、その重点地域ごとの関係者を集めた組織拡大交流会議を開催します。そのひとつとして、広島での「スポーツ懇談会」を反核平和マラソン広島集会の企画と連動し、幅広いスポーツ関係者が集えるよう計画します。

## 2、第30回全国スポーツ祭典と全国競技大会

①2014年の第30回全国スポーツ祭典は、「陸上」「水泳」を除いて東海ブロック（4県）で開催することを確認しました。今後、全国種目組織との調整を経て会場を決定します。

②2013年度全国競技大会は、予選開催県を増やすことを目標に取り組むことをよびかけます。

## 3、国民のスポーツ権実現とスポーツの民主的な発展をめざす活動をすすめる

①第30回全国総会決議第1章(3)に示された〈スポーツの発展のための共同要求案〉に基づいて、広範なスポーツ団体との協力・共同の運動を進めます。神奈川県と大阪市などで起きているスポーツ基本法に逆行する動きを許さない取り組みを、他の都道府県連盟や全国種目組織を含め強化していくことを呼びかけます。

②スポーツ基本法の学習と共同要求聞き取り活動を進めます。昨年は、永井、和食、青沼が交代で講師を務めました。引き続きスポーツ基本法および地域スポーツ推進計画に関する学習・討論会の開催に向けて、各都道府県連盟および種目別連盟と共同して取り組みを進めます。

③対文部科学省交渉と都道府県連盟による対自治体交渉を進めます。地域連盟の先進的な活動に学び、各地の要求をまとめて、多くの都道府県連盟が対自治体交渉に取り組めるようにします。

④スポーツ界から体罰・暴力を一掃するためのキャンペーンや対話・討論会などに取り組みます。

## 4、国際活動の本格的な展開をすすめる

①2013年の国際交流は、5月の全国RCによるFSGT ツール・ド・ペイ・コーマラソンへ4人派遣。また、2013年8月12日に開催される韓国体育市民連帯主催の第1回国際フォーラムにスポーツ連盟代表団を派遣します。また、よこはま VIVICITTA、大阪 VIVICITTA の成功を支援します。

②CSIT加盟検討について、本格的な議論を継続します。

③国内でのスポーツを通じての草の根からの国際連帯活動は、人種・国籍・信条をこえての外国人と日本人との相互の信頼・連帯を促進する事業です。在日外国人スポーツ交流活動を促進していきます。

## 5、スポーツ連盟の魅力を発信する広報活動をさらにつよめる

スポーツ連盟の活動と主張を種目を越えて共有し、スポーツ界に向けて発信する活動と役割はますます重要になっています。広報4ツール（『スポーツのひろば』、ニュース（号外）、全国通信、HP）を、それぞれをさらに充実させるとともに、『スポーツのひろば』は、クラブ・チームを結ぶ機関誌であり、連盟を広げる活動に不可欠なツールとして、普及活動に取り組みます。

## 6、諸課題

①リーダー養成委員会では、教本改善と理事・評議員を対象にした講座を継続するとともに、都道府県・種目組織に活用できるDVDの作成に取り組みます。

②学習会や集会への参加など「原発ゼロの社会をめざす」活動を進めます。2013年度も学習会開催を含め、金曜日官邸前行動等の様々な集会や活動に積極的に関与していきます。

③国民のスポーツ権を実現する活動に不可欠な取り組みとして、スポーツ連盟が政治やすべての政党と対等平等の関係を持ち日常的に意見の交換を行い、選挙においても適切に対応する方針を検討していきます。

④全国スポーツセミナーは、2013年9月28～29日に岩手県盛岡市・御所湖を中心に、東北復興支援として開催をします。

⑤第30期第1年度（2012年）決算、第2年度（2013年）予算を承認しました。

## 第2回スポーツ祭典実行委員会報告

第29回全国スポーツ祭典実行委員会  
事務局長 萩原純一（文責）



去る2月23日（土）に表記の通り、「東北復興支援第29回全国スポーツ祭典」の2回目の実行委員会が開催されました。東京の平成帝京大学集会室で17時10分から約1時間30分、これまでの全国祭典のまとめを行いました。全16種目のうちスキー競技大会を除く15種目で、既に競技を終了しており、この時点での集約という形をとりましたが、その後、3月2、3日に開催したスキー競技大会の集約も含めて報告致します。

### 〔全国スポーツ祭典のまとめのポイント〕

- 1 「東北復興支援」の全国スポーツ祭典として、各開催種目が位置づけを明確にして取り組んだ。  
この全国祭典に出場した東北の選手、チームは、岩手県43人、宮城県93人、福島県135人、青森県37人、秋田県31人、山形県8人に上りました。  
「消せるボールペン」は、各大会の参加賞として取り扱う種目が多く、また、各都道府県や地域でも普及するなど広がりを見せました。当初の予想をはるかに超えて、15000本を超えて販売され、そこから150万円が東北からの出場参加費免除として充当されました。  
その他、卓球とバドミントンが福島県で、全国祭典の予選大会として開催しましたが、ここでも、東北からの出場者の参加費を免除し、更に卓球では、関東エリアから集まった支援物資を大会々場に持ち込み、東北出身選手に渡されました。  
全国RCは、各地のランニング大会で独自のカンパ活動を行い、85万円を選手らの宿泊費、交通費に当てました。こうした取り組みは、大いに東北のみなさんの支援に結び付いた取組みとなりました。
- 2 開催会場がいくつもの都府県に分散しての祭典となりましたが、その分、多くの自治体からの後援が寄せられたことは、これまでにない広がりを感じました。中でも、ソフトボールの郡山市、ミックスバレーボールの鳴門市、ウォーキングの高野町では、それぞれ首長からのあいさつを受けるなど、スポーツ祭典への期待が寄せられたことも特徴として上げられます。また、プログラムには、著名な選手からの応援メッセージが掲載され、出場選手や関係者を大いに激励しました。
- 3 全国祭典の予選大会として位置づけられる各地のスポーツ祭典の取組み、あるいは出前大会などが広がりました。卓球は、41都道府県で予選大会のうち、19地域が出前大会として開催されています。また、バドミントンでは、群馬県、福島県、山梨県で出前大会を開催、ミックスバレーボールでは、広島市大会、いわき市大会、印西市大会、中標津大会で出前大会を開催するなど、新しい取組みが進んだことが特徴として上げられます。
- 4 「深めよう絆！スポーツは生きる力」の横断幕4本、ポスター1000枚、メダル743個、賞状1500枚などの祭典グッズが、使用されました。中でも、祭典スローガンの横断幕は、大変に好評でした。ポスターは、祭典会場に何枚も連ねて貼りだされて、会場の雰囲気盛り上げる役割をはたしていました。
- 5 後援を受けた自治体への報告や応援メッセージを頂いた方々への報告と御礼を一斉に行うこと、第29回全国祭典のまとめ集を4月の全国理事会までに作成することを確認しました。
- 6 第29回全国スポーツ祭典の中間決算の報告を受けました。陸上競技の赤字への特別措置の確認、種目別決算書の表記方法の修正、そして、スキー大会決算を反映し、最終決算書を作成することとしました。

## 声明＝スポーツから「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすための共同を！

この声明は、第1回評議員会（2/23～24）で討論し三役で取りまとめ発信されたものです。  
今後、連盟内外で大いに討論し共同の行動を広げましょう。

大阪市立桜宮高校のバスケットボール部キャプテンの自殺が顧問教師の「体罰」に起因することが明確になり、これを契機に学校の部活動における「体罰」・暴力問題が次々に明らかにされつつあります。

学校の部活動における「体罰」だけでなく、全日本女子柔道監督の選手に対する暴力行為の実態とそれを黙認してきた全日本柔道連盟（全柔連）の後進的で閉鎖的な体質が明らかになりました。2月4日に公表された、柔道女子ナショナルチームの15選手連名による告発は、選手としての道を断たれる恐れや周りへの影響などを悩み抜き「必死の思い」で「競技者が、安心して競技に打ち込める環境」の整備を求めるとともに、「私たちは、すべてのスポーツにおいて、暴力やハラスメントが入り込むことに、断固として反対します」と述べています。（注：「ハラスメント」とは、嫌がらせ、いじめの意。セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントなどとして使われる）

こうした事態を受け、様々なスポーツ関係者、多くのスポーツ団体をはじめ国民各層の間で、スポーツから「体罰」・暴力をなくすための新たな努力が始まっています。

新日本スポーツ連盟は創立以来、「スポーツは万人の権利」として発展させることをめざしてきたスポーツ団体として、スポーツから「体罰」や暴力をなくすために、すべてのスポーツ関係者、スポーツ団体と共同してあらゆる力を尽くしたいと考えています。

スポーツにおいて、「体罰」や暴力は人間性と人権を否定するだけでなく明白な犯罪でもあり、絶対に容認できないものです。また、自主性の尊重とスポーツの価値の核心であるフェアプレイ精神と対極にあるものです。その点で、今後「体罰」や暴力を行使した指導者は、スポーツの指導の場面から無条件に排除し生徒や選手達を保護すべきです。同時に、スポーツ界をはじめ社会においても「信頼関係があればある程度の暴力も許される」などと「体罰」や暴力をふるう指導と指導者を容認する風潮が根強くあり、「体罰」・暴力を繰り返してきました。その背景には、スポーツ団体の非合理的で非民主的な運営、プレイ場面における選手の個性と人権を無視した指導など、スポーツ界の後進的な体質があります。さらには、本来スポーツ界の自主的な目標であるべき五輪でのメダル獲得目標を「スポーツ基本計画」に直接掲げるなど、政府・文部科学省が「メダル至上主義」「勝利至上主義」をスポーツ界に押しつけていた弊害も否定できません。

いま、私たちスポーツに関わるすべての人びとには、自殺したキャプテンの死や柔道女子選手15人の勇気ある行動を無駄にしないために、スポーツ界の「体罰」・暴力とそれを容認する風潮をなくすための決意と行動が求められています。

新日本スポーツ連盟は、“学校の部活動や子どものスポーツはもちろん、すべてのスポーツにおける「体罰」・暴力は、スポーツの価値を否定するものであり、スポーツとは絶対に相いれない”という立場をあらためて表明するとともに、自らの組織と活動においても、「体罰」・暴力・ハラスメントを絶対に容認しないことを宣言します。

同時に、新日本スポーツ連盟は、スポーツ界から「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすため、率先して奮闘するとともに、日本オリンピック委員会（JOC）、日本体育協会、全柔連をはじめ、すべてのスポーツ団体とスポーツ指導者が、共同して以下の取り組みを進めることをよびかけます。

- ①すべてのスポーツ団体と指導者は、「体罰」や暴力・ハラスメントを行わないことを表明し、今後、「体罰」・暴力を行った指導者はスポーツ指導の場面から無条件に排除すること。
- ②スポーツの競技者が「体罰」・暴力・ハラスメントなどについて、意見表明する権利を保障する機構、制度を確立すること。
- ③すべてのスポーツ団体、スポーツクラブ・チームは、選手・競技者、会員の尊厳と人権を尊重し、民主的で公正・公平で開かれた組織運営に努めること。とりわけ、女性競技者の意見が組織運営に正当に反映されるよう女性役員の拡充をはかること。また、スポーツ指導やスポーツ活動の場面において選手・競技者の尊厳と人権を尊重すること。
- ④人間の尊厳と個性の尊重に重きを置くスポーツは「体罰」・暴力とは相いれないという指導理念の確立、さらに競技力の向上は、科学的で合理的な指導方法やトレーニング方法によって実現するなど、指導者の資質の向上をはかること。
- ⑤学校教育法で禁じられている「体罰」・暴力を学校の部活動から一掃し、部活動を生徒の主体的で自主的な活動として発展させること。そのためにも、顧問教師の専門的な知識と指導力を養成する研修制度の確立、適切な配置および奉仕的な活動への時間的経済的な保障をはかること。さらに、学校の部活動にたいし勝利至上主義と過度な選手養成を期待する行政やスポーツ界のあり方も検討すること。

最後に、すべてのスポーツ団体が、わが国のスポーツからあらゆる「体罰」・暴力・ハラスメントをなくし、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利（スポーツ基本法）」にふさわしいスポーツを実現するために、協力し合い、広く国民的な討論を起こすことをよびかけます。

2013年2月24日 新日本スポーツ連盟

### IOCに、「2020年五輪招致に異議あり！」を伝えた

3月4日～7日の4日間、2020年夏季五輪の立候補都市に対するIOC評価委員会の視察が行われました。今回の視察に当たっての東京招致委員会の対応を見ると、「支持率」向上のための選手を前面にした異常なキャンペーンによって、他の「都市並みの支持率」となったこと、その一方で、計画の検証の材料となる詳細な会場配置図を公開しないなど、都民と国民には閉鎖的な対応に終始。このことはIOC評価委員会と海外メディアには、招致委員会の動員者以外の都民が近づけない移動方式となっていたことにも示されています。

スポーツ連盟は、東京都連盟を中心に、スポーツを通じた平和の実現とスポーツを人権として発展させるというオリンピック運動の目的を実現する立場から、

都民のスポーツを切り捨て、都民の意思を無視してすすめる「東京招致に異議あり！」の主張を掲げて行動しました。3月4日には日本青年館で、幅広い都民団体とともに集会を開催。また、5日は東京体育館前で、6日は東京ビッグサイトで直接調査団に「異議あり！」ボードを掲げアピールを行いました。これらには多くのマスコミの取材もありました。

IOC評価委員会の視察は終わりましたが、引き続き、東京招致の基本理念や目的、開会計画の実態を事実に基づき検証し、スポーツ愛好者や都民に広く知らせていくことが重要です。なお、IOC評価委員会は、今後イスタンブール、マドリードの順番で視察を行い、7月に報告書を発表し、9月7日のIOC総会の投票で開催都市を決定します。

# 2013年度全国競技大会開催一覧

2013年3月5日現在

種目		開催日	開催県	施設名
水泳		11月3日	東京都(都大会を兼ねる)	辰巳国際水泳場
野球		11月2日～3日	岐阜県	岐阜市内中心
バレーボール		11月16～17日	埼玉県	16日＝栃木市総合体育館、久喜市 17日＝栃木市総合体育館
卓球	一般の部	12月7～8日	神奈川県	小田原アリーナ
	年代別の部	11月30～12月1日	北海道・札幌市	北海きたえーる
テニス		11月16～17日	愛知県	名古屋市 東山公園テニスセンター
サッカー	東日本	10月6日	千葉県	青葉の森
	西日本	11月10日	大阪府	南津守さくら公園
	ファイナル	12月1日	兵庫県	ユニバ記念補助競技場
	シニア大会	11月16日～17日	大阪府	J-GREEN堺
バドミントン	団体戦	6月22日～23日	愛知県	名古屋市東スポーツセンター
	個人戦	12月7日～8日	愛知県	名古屋市守山スポーツセンター
ソフトボール	東日本	11月5日、6日	神奈川県	厚木市酒井スポーツ広場、玉川球場
	西日本	11月10日	京都府	太陽が丘競技場
ウォーキング		6月1日～2日	静岡県	富士山と青木ヶ原樹海を歩く
ミックスバレーボール		11月30日～12月1日	静岡県	浜松アリーナ
スキー		2014年3月	長野県	戸狩温泉スキー場(予定)

## 全国連盟関係スケジュール(2013年3月～9月)

3月	2～3日	全国スポーツ祭典スキー競技大会	7月	7日	宮城:反核平和マラソン、三重:反核平和マラソン&ウォーキング	
	3日	全国水泳協議会総会、全国サッカー協議会総会		7日	大阪関西網の目反核平和マラソン、和歌山平和大好きウォークマラソン	
	9日	東京都連盟第45期定期総会、和歌山県連盟総会		14日	大阪府連盟第47回定期総会、兵庫平和マラソン	
	9～10日	全国テニス協会第22回定期総会			神奈川反核平和マラソン	
	10日	全国野球協議会第22回定期総会		15日	千葉反核平和マラソン	
	16日	千葉県連盟第41回定期総会		27日	東京反核平和マラソン、青森平和駅伝&ウォークの集い	
	20日	京都府連盟総会			長野県連盟総会、全国ソフトボール理事役員会	
	23日	宮城県連盟第48回定期総会			福岡:ニコニコベースの平和マラソン	
	23～24日	岩手春休み子どもスキー		8月	1日	ひろば9月号発行
	25～26日	宮城春休み子どもスキー遠足				全国ランニングセンター:信州クリニック
		全国バドミントン協議会総会		4日	あいち反核・平和マラソン&ジョッキン(鶴舞公園)	
4月	4日	ひろば5月号発行		6日	滋賀:反核平和マラソン	
	6日	岩手県連盟:総会と基本法シンポジウム		6～8日	反核平和マラソン(広島～長崎)	
	7日	第4回よこはまVIVICITTAマラソン		12日	韓国民連帯第1回国際フォーラム	
	12日	北海道連盟第29回定期総会	9月	24～25日	30期第6回理事会	
	13～14日	30期第5回理事会			3日	ひろば10月号発行
	14日	大阪VIVICITTAマラソン大会			28～29日	全国スポーツセミナー:岩手県盛岡
	20日	全国卓球協議会総会				
		福岡県連盟総会				
5月	2日	ひろば6月号発行				
	3～5日	全国RC:伊豆稲取ランニングクリニック				
		原水爆禁止国民平和大行進東京～広島スタート				
	8～11日	全国RC:FSGTツール・ド・ベイ・コーマラソンへ派遣				
	12日	和歌山:核兵器のない世界をめざすマラソン				
	18日	滋賀県連盟総会				
	26日	和歌山:核兵器のない世界をめざすマラソン				
	25～26日	全国野球協:選抜野球大会(静岡)				
6月	1～2日	全国交流ウォーキング(富士山)				
	2日	全国ランニングセンター:関西クリニック				
	7日	ひろば7・8月号発行				
	8～9日	全国勤労者スキー協議会代表者会議				
	9日	名古屋1周平和大好きマラソン				
		富山反核平和マラソン				
	16日	京都反核平和マラソン、三重県連盟総会				
		石川:反核平和マラソン				
	22～23日	全国バドミントン競技大会個人				
	23日	兵庫県連盟種目代表者会議				
	30日	愛知県連盟45周年記念行事				
		神奈川県連盟総会、愛知県連盟総会、石川県連盟総会				
		和歌山反核平和マラソン、群馬:反核平和マラソン				

\* 追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。

## 東北復興支援 「義援金」報告

2013年2月23-24日 第1回評議員会資料より

### 義援金募金 2011年3月～ 全国連盟口座への振り込み分

A義援金(スポーツ連盟支援募金)	募金 合計	8,747,685円
* FSGTからの支援募金の合計 890,011円を含む		
B義援金(公的機関への募金)	募金 合計	178,976円
2011年12月8日朝日新聞厚生文化事業団へ送金		

### A義援金(スポーツ連盟支援募金) 充当状況 2011年3月～

被災者お見舞金	3,620,000円
宮城県・岩手県連盟支援金(活動支援、事務所維持支援)	1,483,270円
東北連盟支援金(全国分担金、「スポーツのひろば」誌代)	827,179円
行事・競技会、ボランティア活動への支援金(2012年3月～)	882,765円
<b>充当 合計</b>	<b>6,813,214円</b>
<b>募金 残高</b>	<b>1,934,471円</b>

多くのご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。